



これからも僕にあった勉強の仕方  
で頑張りたい

平成29年度 音声教材普及推進会議 九州・四国・沖縄地区  
熊本市立日吉小学校 LD・ADHD通級指導教室 宮本美哉

# 日吉小学校 紹介

- ▶ 熊本市南区
- ▶ 児童数 421人
- ▶ 通常学級 15学級
- ▶ 特別支援学級
  - 知的障害学級 2学級
  - 自閉症・情緒障害学級 1学級
  - 病弱学級 1学級
- ▶ 通級指導教室
  - 言語通級指導教室 2教室
  - LD・ADHD通級指導教室 2教室



## デイジー導入まで

2008年 LD学会広島大会 参加  
「クリニックからクラスルームへ」  
・デイジーを知る

2012年 通級担当になる

2013年 通級教室のパソコンに音声教科書をダウンロード

(熊本市初)

公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会  
情報センター よりコンテンツの提供を受ける

2017年 音声教科書使用 5年目



「読み」の苦手さがある子にとって  
文字教科書の学習やペーパーテストはバリアがある

## 教科書の文章やプリントの問題文を読む

入力(読む)

情報が入りづらい

思考

出力(書く)



容量(考える力)はあるのに、  
入り口が狭く水のたまりづらい 壺 のよう。

## 「読み」の苦手さとは

目で見ること・形をとらえることが苦手

無意味記号の記憶と想起が苦手

頭の中で音に変換することが苦手

文字や文の表記ルールの記憶と理解が苦手

### 《音読》

発音、読みの流暢性、抑揚・・・

### 《内容理解・読解》

記憶と結びつけることが苦手

今まで読んだ部分と結びつけることが苦手

▶<sup>5</sup> 要旨の把握、段落の構成、登場人物の気持ち・・・

## 「読み」の苦手さ による二次的な課題

- ▶ 努力しても文字を覚えづらいため、  
読み書きが関わることへの努力をしなくなる。
- ▶ 努力しても成功体験を得られにくいいため、  
自信がなくなることがある。
- ▶ 結果的に学習への意欲が下がりがちである。
- ▶ 新聞や本を読みたがらず、結果的に語彙や知識の  
広がりが少なくなる。
- ▶ 練習をさぼっていると誤解されたり、叱責されることが  
増えたりで、周囲への信頼感が下がる。



# DAISY教科書のよさ

聴覚的な支援: 音声でガイドしてくれる。

読み間違い、読み飛ばしが無い。

文字が読めなくても内容がわかる。

視覚的な支援: 読む部分を抽出してハイライトするので、目で追やすい。

今、どこかわかるので、最後まで集中しやすい。

文字の大きさをアレンジすることができる。

背景色、ハイライトの色を変えることができる。

漢字にルビがついているものもある。

スピードを調整することができる。

心理的な支援

▶ 7 読みの抵抗が減る。学習者が、読み物に主体的に関われる。

# アセスメント

## ▶ 行動(音読の様子)観察

- 何回練習しても上手にならない。
- たどたどしい。
- ことばの切れ目がわからない。
- 思い込み読み・勝手読みが多い。
- 同じ行を読んだり、行を飛ばしたり戻ったりしても気づかない。

## ▶ STRAW(ストロウ)小学生の読み書きスクリーニング

## ▶ URAWSS(ウラウス)

Understanding Reading and Writing of Schoolchildren

## 太郎さん（仮名）のこと

- 明るく活動的で、おしゃべり好きで楽しい子。好奇心が強い。
- 授業中、すぐに、机の上に「だら一ん」(本人談)となってしまう。
- 初見で読むのは難しい。練習してもなかなか上手にならない。
- 音読の際、行を読み飛ばしたり、戻ったりしてわからなくなる。
- 繰り返し練習すると、練習前と比較して読みは上手にはなる。
- 他の人が読むのを聞きながら、文字を見て追視する際、文字と視線がずれる。視線ではなく首ごと動かす。
- テストは「だら一ん」となりがちだが、横で教師が読むと頑張れる。
- 漢字を練習してもなかなか覚えられない。
- 助詞(は、へ)や拗音の書き方が定着しづらい。
- 忘れ物が多い。



# 太郎さん（仮名）の様子



# 読みに関する具体的な支援・学習内容 (通級指導教室)

## 《音読の練習》

デイジーの音声の後追いで読む、慣れたら一緒に読む。

## 《内容理解支援》

音声教科書デイジーで教科書の内容を予習する。

慣れたらデイジーの読み上げ速度を早く設定して、繰り返し聴く。

- ▶ 口頭でのやり取りで(書く学習は入れずに)理解を深める。
- ▶ 挿絵でイメージや場の理解を促す。
- ▶ 図での文章構成の理解(思考マップや付箋の利用)を促す。
- ▶ 表情イラストで、気持ち言葉の理解を促す。
- ▶ 記憶するときに意味づけや絵を利用する。
- ▶ 眼球運動トレーニング(パソコンソフトやゲーム)を行う。

## 日常的な配慮（担任の先生）

- ▶ 温かくきめ細やかな学級経営
- ▶ 多様な個性が認められる学級づくり
- ▶ 友達との競争ではなく、昨日の自分との比較を促す声かけ。
- ▶ 《読み》ルビ付教科書（デジタル教科書からプリントアウトして冊子に）
- ▶ 《書く》どこを板書するかを印を入れる。声かける。
  - 黒板のノートテイクは範囲を決め、量の調整をする。
  - 連絡帳の書き方・量の確認、書く時間の確保。
- ▶ 漢字テストは内容の予告をする。合格ラインの確認。
- ▶ 下校前に宿題の内容や一人でできるかの確認をし、相談する。
- ▶ 卒業前に教室で一度だけ、社会の教科書（デイジーiPad版）をイヤホンで聞きながらまとめた。



# DAISY教科書を使つての太郎さんの変容

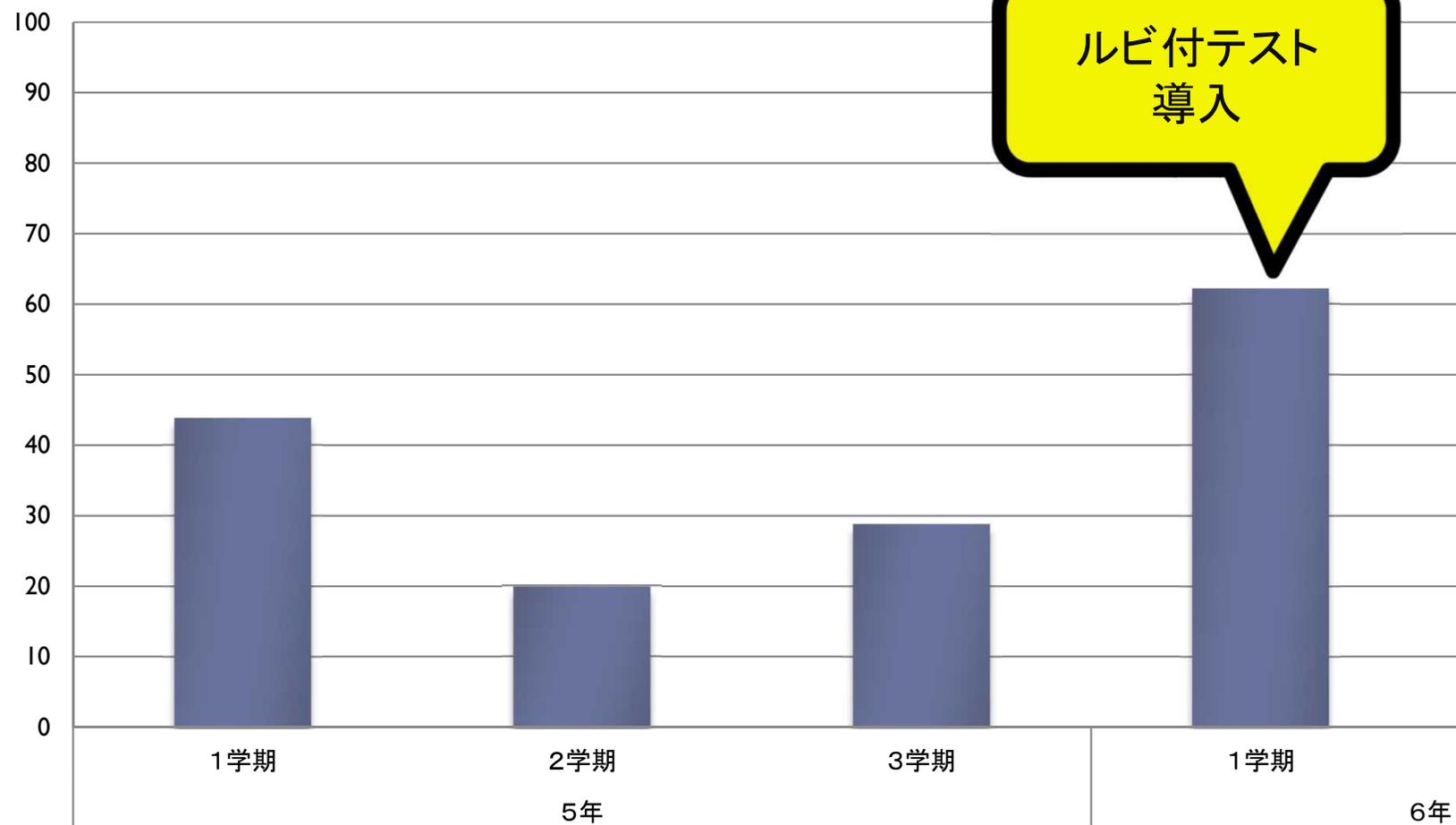
## ①デスクトップパソコンで学習開始

- ▶ 学習への意欲が高まった。
- ▶ 背景やハイライトの色や字の大きさを自分で調節する。
- ▶ 今、どこを読んでいるのか気をつけるようになった。
- ▶ はじめは、お手本の声の後について読んでいたが、だんだん、お手本と重ねて読むようになった。

## ②タブレット端末で学習し始めて

- ▶ ピッチや読み速度も自分で工夫するようになった。
- ▶ 粗筋をつかむためにスピードを上げて聴くことができるようになった。
- ▶ 前に戻って確認する作業が活発になった。(スワイプ)
- ▶ 漢字の確認のために拡大するようになった。(ピンチアウト)
- ▶ 書き写しやすいようにプリントの横に置くようになった。

# 太郎さんの国語（読解分野）テスト平均



通級指導教室でのデイジーでの音読練習は継続

# VOCA-PEN を利用しての読み上げ支援

録音・再生ができる

ペンとシールがセットになっており

音声を録音したシールを

ペンでタッチすると

その内容を再生する支援器具

録音操作が簡単



香川大学教育学部 坂井聡教授 監修

# 音声情報での読解問題プリント

やり方：市販のプリントの問題を教師が読み上げたものを録音し、児童が問題を「聞いて」解く。口頭または書いて答える。

読みに苦手さのあるお子さんが、  
音声情報で問題文や課題文を提示するプリントに出会うと、  
ほぼ必ず  
「こんなに考えたのは初めて」  
「こんなに頭を使ったのは初めて」と言う。  
彼らは、これまで、問題文を読む（音にする）ことに  
一生懸命で、問いの内容について考えることが  
少なかったと想像する。

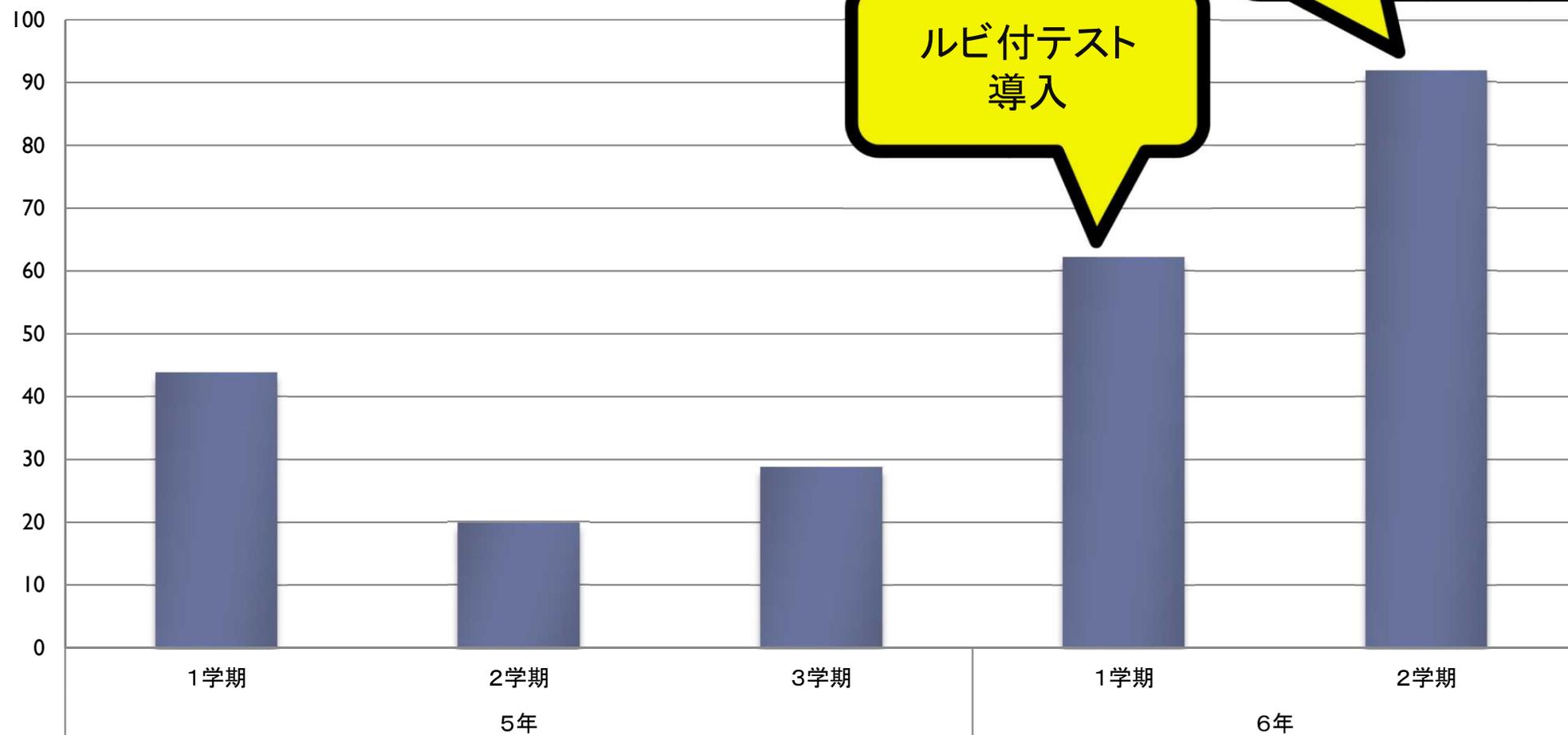


## テスト問題の読み上げ支援による効果

- ・テストに要する時間がとても短くなった。
- ・平均点が上がった。
- ・内容を理解したいという意欲が上がり、日常のDAISY教科書での読み練習に熱心に取り組むようになった。
- ・教師側：児童の理解度がはっきりわかる。



# 太郎さんの国語（読解分野）テスト平均



通級指導教室でのデイジーでの音読練習は継続

## デージー教科書＋他の音声支援を始めての変容

### ③音声読解プリントやテスト問題読み上げ支援を始めて

- ・全体の構成や内容をより考えるようになった。(ピンチイン)  
字を小さくして、全体が見えるようにしていた。  
(文字情報の方が、段落構成(1マス下げ)がわかりやすい)
- ・質問が増えた、さらに意欲が高まった。  
速度を早くして、聞き流しながら内容を確認する。  
内容について質問することが増えた。  
音だけ聞いていて、「あれ」と思ったときだけ文字で  
確認することもあった

#### 太郎さんの様子を見ての担当者の気づき

- ・音声情報は文全体をざっと俯瞰することに向いていないため、始めに聞くときは順番にゆっくり聞く必要がある。時間を十分とる必要がある。
- <sup>19</sup>。「五字で書きなさい」といったテストはかなり視覚情報中心の考え方のテストである。

## 卒業前スピーチ原稿より（１）

ぼくが今から話すのはひよし教室の先生の話です。先生との出会いは3年生の終わり頃でした。先生と出会う前は教室ではやる気がなくて、すぐに勉強をすることをあきらめていました。そんなぼくが先生と勉強していくうちに、だんだんおもしろいと思うようになりました。



先生はぼくにあった勉強の方法を探してくれました。

## 卒業前スピーチ原稿より（２）

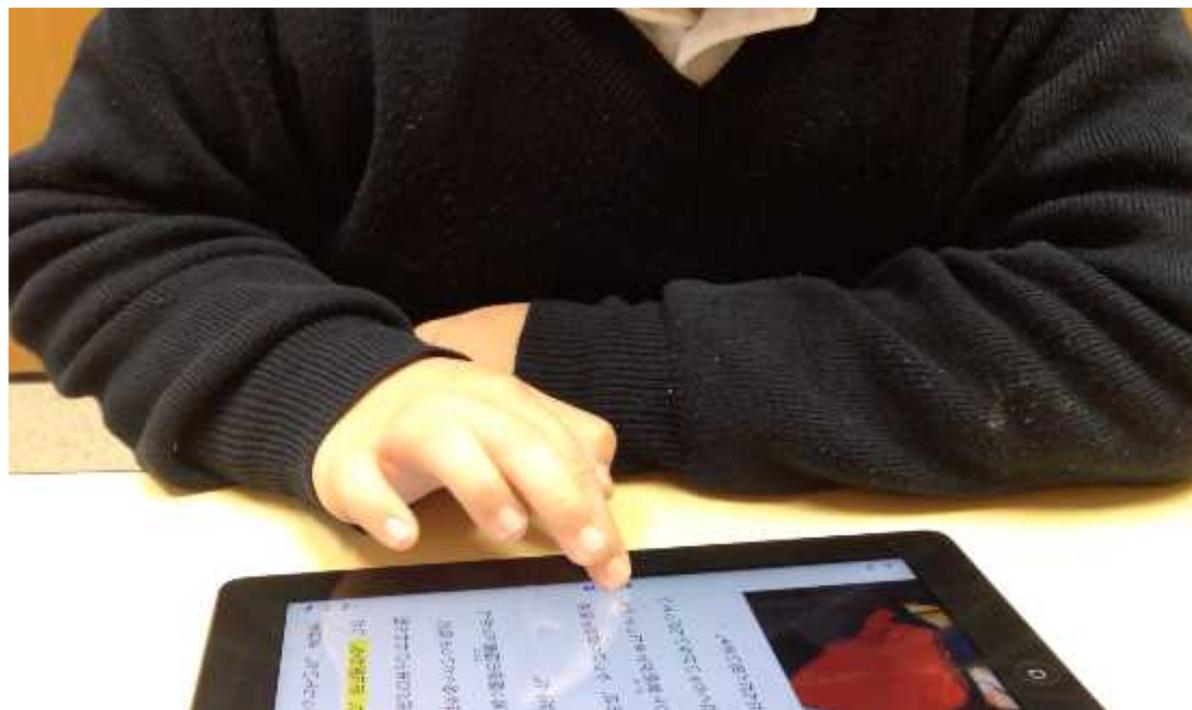
ぼくが苦手になっている  
漢字をおぼえやすいように、  
わかりやすく  
教えてくれました。



漢字の練習の時に分けて覚えます。  
国語の語だったら  
「言う」と「五」と「口」で覚えると  
忘れた時に思い出すことができます。

## 卒業前スピーチ原稿より（3）

他には、音で読んでくれるボカペンや  
音声教科書デイジーで教えてくれました。



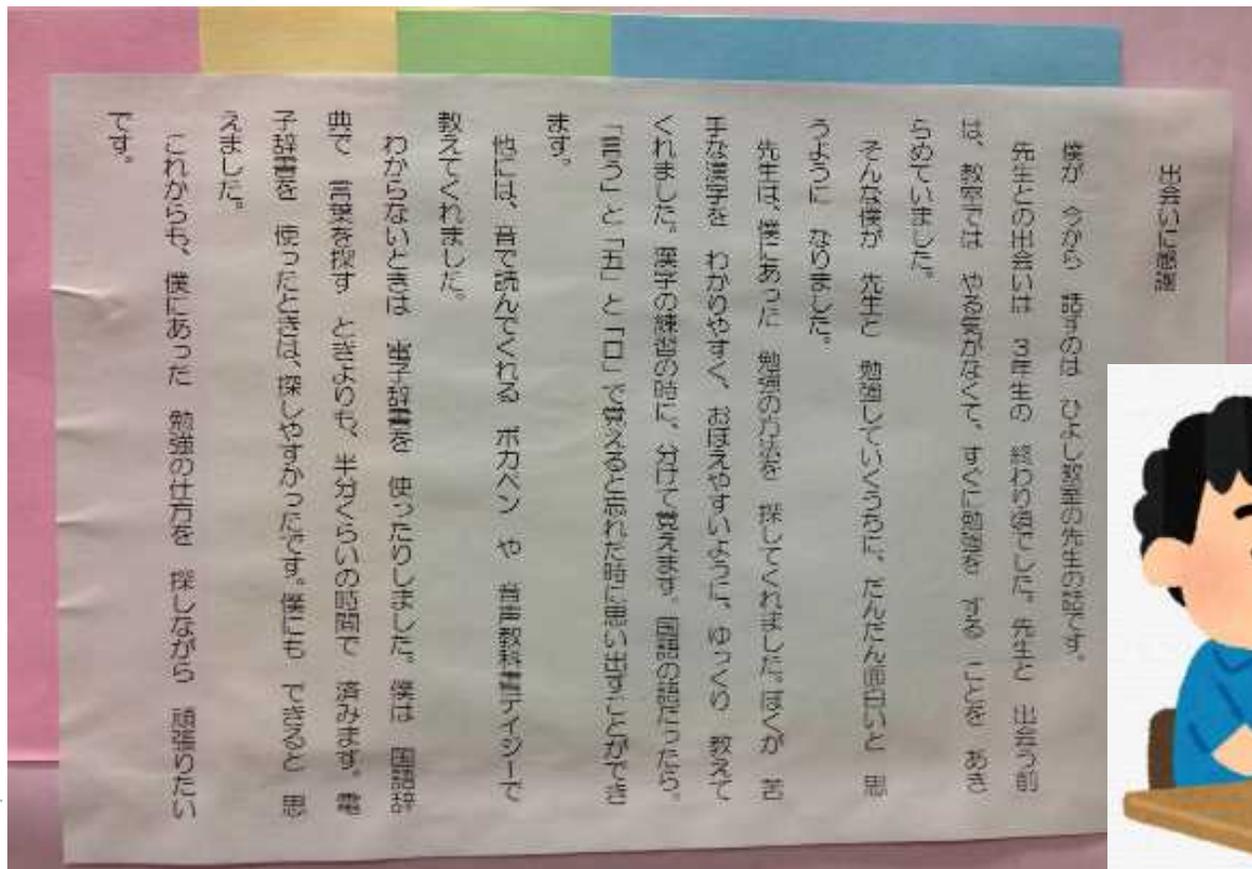
## 卒業前スピーチ原稿より（４）

わからない時は、電子辞書を使ったりしました。  
ぼくは国語辞典で言葉を探す時よりも  
半分くらいの時間ですみます。  
電子辞書をつかったときは、探しやすかったです。  
ぼくにも出来ると思えました。



## 卒業前スピーチ原稿より（５）

これからも、  
ぼくにあった勉強のしかたを探しながら、  
頑張りたいと思います。



# 課題

- ▶ DAISY図書に出会って10年目。
- ▶ 太郎さんへの支援に時間がかかり、思ったより広がっていない。

## 心理的なバリア

- ・学力感:「読み書き計算」「国語なのに文字を読まなくていいのか」
- ・大人の良心:「読めるようにしてあげたい」という心→繰り返し練習。
- ・合理的配慮に該当するかの判断が難しい。→特別扱いはできない。

## 情報環境のバリア

- ・情報環境の整備 と 操作の簡素化 が必要
- ・音声学習プリントのデジタルコンテンツ化 の必要性

## 入試?.....

# 情報環境のバリア

## 学校の情報環境

(平成29年本校)

- ▶ 各教室ランケーブルでネットにつながる状況である。
- ▶ WiFi環境にはない。
- ▶ 学年に1台の大型テレビ
- ▶ 児童用パソコンは、パソコン室に20台。全てデスクトップでタブレット端末はない。
- ▶ 29年度より支援学級通級教室に児童用パソコンが1台ずつ配置された。

手軽に支援できる環境なら・・・

## 家庭でのデイジー導入状況

(平成23年本教室)

5. 指導概要と家庭での使用状況

	デイジー使用頻度	デイジーでの指導内容	家庭での使用状況
A	週1回 10分程度	予習気味に活用する。音読練習をする。教師による意味の補足説明を加え、内容理解の支援を行う。	家庭でも使用。宿題以外にも下学年の文学教材を児童自ら読む。
B	週1回 10分程度	語彙は豊かである。音読の練習をする。	家庭でも使用。音読の宿題を行う。
C	週1回 10分程度	音読の反復練習	パソコンがない。
D	週1回 20分程度	Aに同じ	インストールできない。
E	週3回 5分程度	Aに同じ	インストールできない。
F	週1回 5分程度	音読の反復練習	インストールできない

Table 2 デイジーの利用状況

タブレット端末の貸し出しができれば・・・

## 入試での支援・配慮について（2011）

大学入試センター試験（2011）より発達障がいのある受験生に特別措置を行えるようになった。

- ・時間の延長（1.3倍）、拡大文字冊子の配布、別室の受験など申請には、
- ・受験特別措置申請書、
- ・高校などが作成する状況報告書、
- ・医師などの診断書を提出

このような発達障害の子どもたちへの手立ては以前は「平等ではない、周りが納得できない」などの理由で行うことができなかった。

しかし、近年では（中略）できるようになったのである。

## 入試での支援・配慮について（2017）

行政に障害者への合理的配慮を義務付けた「障害者差別解消法」の施行後、初めての公立高校入試がこの春、実施された。毎日新聞が行った都道府県教委へのアンケートは**学習障害のように困難さが分かりにくい障害を持つ受験生が不利益を被らないように配慮しながら、他の生徒との公平性をどのように保つか**で頭を悩ませる現場の姿を浮き彫りにした。（中略）

障害者差別解消法は、日常的な学校生活でも障害者に配慮することを行政側に義務づけている。しかし、明確な指針がなく、実際にどのような配慮をするかの判断は学校にゆだねられている。こうした状況の中、**通っている学校で支援を受けているか否かを、受験時の配慮にするかどうかの基準にすると、普段から学校の理解を得られていない生徒は入試でも配慮してもらえず、同じような障害がある生徒と比較しても不利になりかねない。**

「『高校入試で認めてもらえないのだから、中学でやっても意味がない』と言って、漢字のルビ振りなどを中学校が敬遠する傾向にある」。埼玉県の中学校で障害のある生徒を支援する女性教諭は、こう指摘する。**高校入試で認められない支援は中学でもしない。中学でしていない支援は、高校入試でもしない—**という悪循環に陥らないよう、中学の意識も変えていく必要があるという。（後略）

# 読みの苦手さをもつ児童生徒にとって音声支援は？

## ▶ ◎情報保証

常に、学びに生かすことができる。

## ▶ ○音読トレーニング

音声教科書を使うと、読みが向上するか？  
というと、練習するので上達はする。が、定型発達の児童に比べると苦手さは残ることが多い。

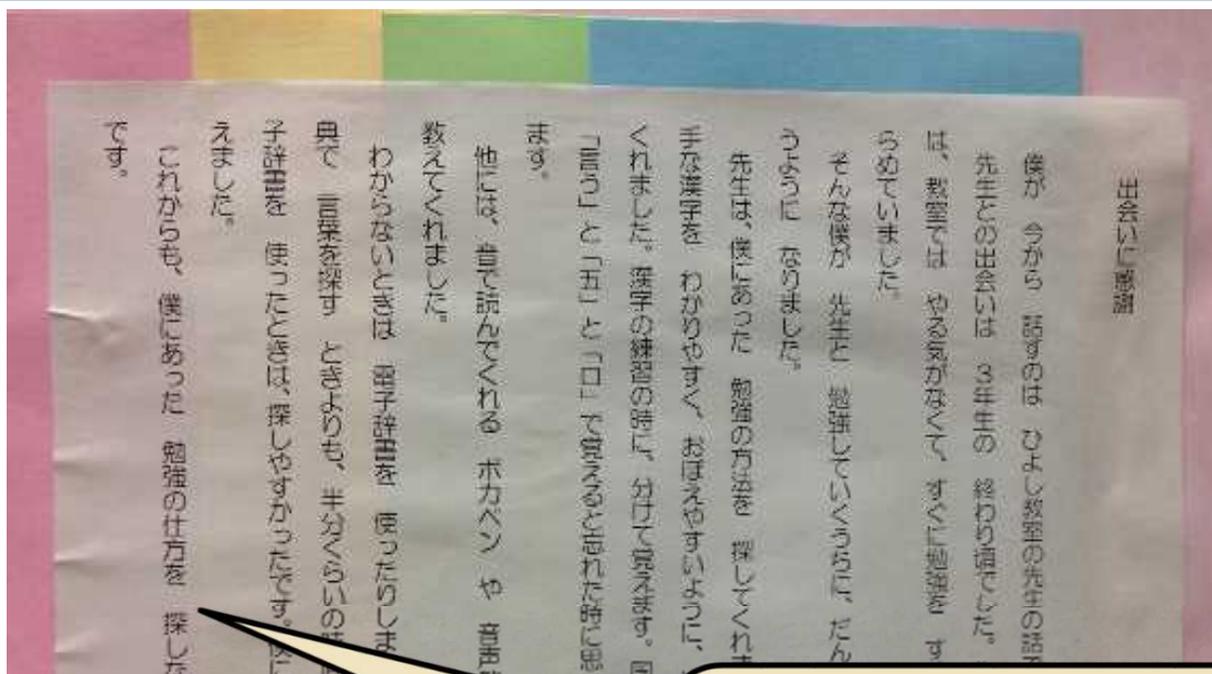
▶ トレーニングとしての使用だけではなく、

**情報にアクセスする方法**

**同じ学びのステージにあがるために使用したい。**



# 学び方の異なる子どもたちが 学び方の選択ができ 笑顔で意欲的に学び続けられる学校に



これからも僕にあった  
勉強の仕方で頑張りたい(太郎)